○　2012 年 10 月 24 日　公の精神でつながるコミュニティー「一志会」の第 12 回例会を開催、ゲストの神岡太郎・一橋大学教授から「グローバル時代の企業経営の要諦」を、津上工作室代表・津上俊哉氏から「当面の中国ビジネス」の講話をいただきました。

一志会は、「公の精神」のもとに社会との関わりをもち積極的に責任を果たそうとの想いを共有する大企業経営者の会員制”コミュニティー”ですが、第 12 回例会を、10 月 24 日に開催しました。今回は、ゲストとして一柳の友人の一橋大学商学研究科教授の神岡太郎氏と津上工作室代表の津上俊哉氏をお招きしました。

神岡教授は、企業におけるマーケティングや IT の活用など幅広い分野にわたり、かつ内外の企業との共同調査など、実践的な研究をされています。今回は「グローバル時代の企業経営の要諦」と題して、経済活動のグローバル化が進む中で日本企業が苦戦している原因と打開策を「マーケティングと IT との活用」の視点から説かれました。変化が激しい時代であるからこそ全体としてのデザイン・長期成長戦略が求められ、そのためには組織の縦割りの弊害を脱却し、顧客(エンドユーザー)視点を基本に据えてトップ主導でスピード感を持って取り組むことの必要性を強調されました。既に単独の要素資源だけでは長期的競争力になりにくくなっており、どのように資源を組み合わせて新たな価値を生み出せるか、差別化できるか、ということが課題であり、アマゾンドットコムや韓国、シンガポールなどの具体的な先行事例を挙げながら、わかりやすく話されました。会員の経営幹部は、まさに「グローバル時代の企業の要諦」になるほどと強く肯いていました。

また、津上代表は、経産省の一柳の後輩で、永年、中国政府との折衝に当たった経験があり、その後、中国での工業団地開発ファンドを運営するなど、一貫して中国と向き合ってきた方です。最近の深刻化している「中国問題」を企業経営ではどのように捉え、対策を講じるべきかについて、生々しい情報をもとに解説、長期化が必至という状況下での対応についてアドバイスをされましたが、会員企業は現地進出など様々な形で中国と深く関わっているだけに、真剣に聞き入って、メモを採っていました。

会員スピーチでは、大阪証券取引所との経営統合が決まった東京証券取引所の土本常務執行役員から話題提供されましたが、新規上場の環境整備や市場の効率運営に向けた取組などの紹介があり、これからの日本市場の魅力度アップについて本音ベースでの活発な質疑が交わされました。

会の半ばでは、初参加のコスモ石油の荻原常務執行役員、アサヒグループホールディングスの長尾常務取締役、アスクルの吉岡取締役 COO からそれぞれユーモアを交えた自己紹介が行われました。

今回も、懇談タイムではお二人のゲストも交えた交流の輪がいくつも出来て、閉会時刻まで和やかな雰囲気で好評裡に終えました。